

第4回 沼津市営住宅今沢団地建替基本構想検討懇話会

日 時 平成31年1月29日15時00分～17時00分

場 所 沼津市民文化センター2階 第2練習室

主な意見等

これまでの意見等のまとめについて

- 団地内の広場等に、災害時に炊き出しができる釜戸付ベンチなどを設置したらどうか。
- 津波や前川に起因する水害への備えとして、新築される市営住宅を避難場所として活用したらどうか。
- 建替えまで時間がかかる既存住宅では断熱等の居住環境のことも考えた方がよい。また、集会所は重要な機能を担うことから建替中においても集会所は利用できるようにすべきである。

現況と課題の整理及び建替の基本理念と基本方針について

- 「耐用年数」という言葉は、いろいろな捉え方ができてしまうため、今回は財務上の年数を示すなど定義を加えた方がよい。
- 基本方針の中で「柔軟な住戸の整備」とあるが、単身世帯用の2つの住戸を1つの住戸にして家族世帯向けの住戸とするなど具体的な記載をしたほうがよい。また、「共用部・外構においても安心・安全～」とあるが、外構の安心・安全という部分は伝わりにくいので、修正した方がよい。
- 「ユニットバス化」と記載があるが、どのような内容を含むものか、具体的に記載したほうがよい。
- 建替の基本理念の中には、「地域」という概念がよく出てきている。地域の領域や対象をどのように捉えるのかということや、地域の活動によって、どのように地域を活性化していくのかということを考えることが、重要であると思う。
- 少子高齢化による自治機能の低下などの課題については、様々な活動を通して活性化していくことが重要である。自治会活動への参画という観点では、集会所やオープンスペースが重要な拠点となるのではないかと思う。
- 地域の安心・安全については、防犯や防災が重要であると思う。また、自助・共助・公助に加えて、近所で支え合う「近助」が大切である。

○福祉とは特定の人に対しての支援という考えが一般的であるが、全ての人が福祉をどのようにするのかということを考える時代が来ている。

「住棟・住戸の整備方針」、「福祉施設等の導入の検討」について

○子育てのしやすさに配慮した間取りの整備という観点から、各住戸の玄関脇等にベビーカーなどを置けるスペースを設けてほしい。

「沼津市営住宅今沢団地建替基本構想（案）」について

○少子化により子供会の活動等に支障をきたしていることから、早期の建替えをお願いしたい。建替えで子供数を増やすのが活性化につながる。

○自治会活動の拠点や避難場所にもなるようなオープンスペースを整備し、今沢に住んでよかったと思える施設をつくってほしい。

○今沢団地に縁がある芸術家や芸能人等に設計の段階で加わってもらうことで、若い人たちの入居の促進につながるのではないかと思う。

○若者の入居を促進するためには、アメニティの向上やリフォームといった点について個人の自由が許容される必要があるのではないかと思う。

○「団地」という呼び方自体が、古いイメージにつながっていると思う。若い人たちにアピールできる名称にした方がよいのではないかと思う。

○長く地元の市民に愛される建物にするために、地域の祭りや人材などの資源を活かした計画をするべきである。

○黒田征太郎氏が壁面のデザインをしたという縁を大事にすべきであると思う。また、イベントなどの開催を通じて、この縁を広げていくことができればよいのではないかと思う。

○団地のイメージを変える議論を深めてほしい。また、団地とその周辺の近隣住民との関係づくりが重要であると思う。

○東日本大震災の後に建設された公営住宅には設計上の多くの知恵が込められているので、参考としてほしい。

○建物は、5階建以下では現在の団地で用いられている階段室型の壁式構造とすると地震に強いが、エレベーターを設置する場合は難しい。エレベーターは片廊下型が良いが、これを可能とする柱と梁で構成されているラーメン構造は、高い建物は比較的容易にできるが、4階建程度では柱が太くなり合理的ではない。耐力壁を設けると2住戸を1住戸にしづらいなど、構造に関する課題もまだ残っているため含めて今後更に検討を進めるべきであると思う。